

## ヨハネの福音書 第14章 6節

「イエスはトマスに言われた。『わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。』」

共に旅するトマスに語られたみことばである。この先どうなるのかと、心騒がしている者へのみことばである。この先を行く道を失いそうな者へのみことばである。この先の旅の目当てが無くなってしまいそうな者へのみことばである。それまでいっしょに歩いて来たイエスが目の前から消える危機に直面する者へのみことばである。旅の道筋、行き方、到着先のいずれも不明ではこまる。道知らず、終着点知らず、不用意に旅立つ者はまずいないはずだ。しかし、人生の旅には、このいずれもわきまえず、意識さえせず旅立つ者がほとんどだ。やがて終わる旅のことは、一時の旅とは桁ちがいに大事だが。

トマスは私たちを代表し、イエスに道と終着点を聞いた。聞いて見えてくる。見えたことは、誰にも道と終着点が必要で、いずれも用意されているということだ。用意されている道と終着点は、トマスに語られたイエスである。わたしが道である。イエスを見ずして道は無い。イエスが道だからである。わたしを通して終着点に来る。イエスが終着点である。主のみもとは父のみもとである。